

「神は人の敬により威を増し
人は神の徳によりて運を添ふ」

この言葉は、鎌倉幕府第三代執権の「鎌倉殿の十三人」で坂口健太郎が扮する「北条泰時」が定めた武家法「御成敗式目」の中に記されている。「神は人から敬われることによつて霊験がある」といふ益々その威力を発揮するようになり、また人は神を敬うことによつて、より良い運を与えられる」という意味です。氏子様方からたくさんのご奉仕をいただき敬われている氏神様はまことに大きな力を持つてくださっています。これからも多くの御神徳を戴けるようにお仕えしたいと思



伊勢神宮の神札の頒布始めのお祭



九月二十一日、和歌山県神社庁神宮大麻暦頒布始奉告祭を有田支部でご奉仕させていただきました。また、十月二十九日には有田支部の頒布始奉告祭を執り行いました。新しい年を迎える伊勢の神宮と伊勢の神宮

のお神札である、「神宮大麻」は田殿丹生神社のお神札とともに皆様のお手元に届けられます。明治の初年までは伊勢の御師と呼ばれた人たちが「御祓大麻」を頒布しており、江戸時代には約九割の家庭で大麻をおまつりしていたとされます。その後、明治五年に伊勢の神宮が直接奉製する「神宮大麻」が全国に頒布されるようになります。令和四年は、その全国頒布開始から百五十年の節目の年となります。



「神宮大麻」は伊勢の神宮の神さま、皇室の祖先神である天照大神より大きな恵みを与えてくださいます。ぜひご家庭に地域の氏神と当社のお神札とでも日本の総氏神である伊勢の神宮にお札をおまつりいただき、ご家庭でも手を合わせ、日々の感謝と平安をお祈りいただければと存じます。

十月は「神無月」神の月

「水無月（六月）」が梅雨や田植えを行う「水の月」を意味するように、「無（な）」は「く」の」という意味の助詞で、「神無月」は収穫に感謝の神々を祭る「神の月」という意味があります。十月は全国の神社で豊かな実りに感謝するお祭りが行われます。決して出雲に全員集合していきたくありません。伊勢神宮でも新穀を初めて神様に奉る「神嘗祭」が執り行われます。

七五三詣 お子様のご成長を感謝

「七つまでは神の子」という言葉が表すように昔は医療技術が乏しく子どもが無事に育つかどうか、大変な心配がありました。七五三は三歳の「髪置」「五歳の「袴着」七歳の「帯解」に由来し、秋の稲刈りの後に子どもご成長をお祝いし、氏神様に感謝をしたのが現在の至りや千歳飴、お土産を生神社ではお守りや千歳飴をお待ちしています。



ホームページへもお越し下さい
<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~taidononyujinija/>

